埋文桜ニュース

発行日：二〇二三年 四月十日
発行者：公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017
愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
電話：0567-67-4163
ファックス：0567-67-3054
ホームページ：http://www.maibun.com/
メールアドレス：doki@maibun.com

新たに令和五年度が始まりました。本年度も愛知県埋蔵文化財センターではさまざまな事業を計画しております。

まず、発掘調査では、設楽ダムや鹿乗川改良工事に伴う調査など、全部で十四の事業で二六遺跡を対象に約二万七千平方メートル実施する予定です（下図を参照）。その調査成果はホームページやツイッターなどで随時紹介し、現地の状況を公開する地元説明会などもできるかぎり開催したいと考えています。

一方、弥富にある調査センターでは、最近までに発掘調査を終えた遺跡の調査報告書を作成するために、遺跡の整理作業を実施しています。本年度は設楽ダム関連の大崎遺跡をはじめ、全部で五つの事業で六遺跡を対象に進めてまいります。

さて、今年も広報・普及活動を多数計画しております。センターとしては六事業を実施する予定です

◎春の埋蔵文化財展　今年も「やとみ新発見展二〇二三」と題して、四月十日から二一日まで弥富の調査センターの二階にて、昨年度発掘調査した最新成果をご紹介します。

◎連続歴史講座　五月一三日から六月二四日までの隔週土曜日の午前に歴史講座を計四回開講いたします。今年のテーマは『モノの形の考古学』。モノの形に焦点を当て、技術の進化、生活文化の向上、社会の変化などを解説します。

◎秋の埋蔵文化財展　令和五年度の秋頃に十日程度、調査センターの二階の資料管理閲覧室にて開催を予定しています。期間内の土日にはイベントを開催する予定です。

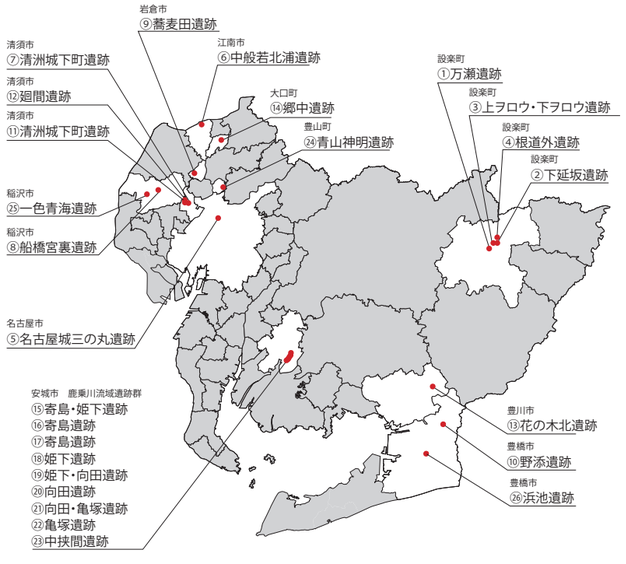
◎考古学フェア「あいちの考古学二〇二三」　十一月七日から二六日まで名古屋都市センターで開催します。愛知県下を中心に考古学に関連する情報を集め、また名古屋のまちづくりに関する考古学の研究成果をまとめ、ポスター展示やシンポジウム、講演会を行う「考古学セミナー」と幅広く県民の皆様に考古学の魅力をアピールする「考古学フェスタ」の同時開催となります。

◎企画展『あいちの発掘調査二〇二三』　一月二〇日から三月一〇日まであいち朝日ミュージアムにて企画展を行います。昨年度に実施された愛知県下の発掘調査成果を紹介していきます。

このほかに、年度末には「設楽ダム関連発掘調査成果報告会　新設楽発見伝10」を例年通り開催する予定です。

以上のように、本年度も積極的にさまざまな情報発信を進めてまいります。

令和５年度の調査予定遺跡



連続歴史講座　今年も4回開催！
モノの形の考古学
モノの形に焦点を当てた講座

2023考古学の祭典
考古学フェア
2023年11月7日（土）～26日（日）
名古屋都市センターにて開催！

令和５年度　発掘調査成果報告会
新設楽発見伝10
令和６年３月開催予定！

春の特別公開 2023「収蔵庫に眠る逸品たち３」

縄文土器　深鉢
笹平遺跡（北設楽郡設楽町）

縄文後期初頭の磨消（すりけし）縄文土器と呼ばれる土器です。土坑に一括廃棄された土器群の中から出土しました。

磨消縄文とは沈線で囲まれた縄文部と無文部を交互にくり返すことによって文様効果を高める装飾技法で、縄文後期前半に九州から関東にかけて広く見られるものです。

土師器　絵画文壺　　寄島遺跡（安城市）

古墳時代初頭の土師器大型壺です。旧河道から出土しました。肩の部分に直線と曲線で構成される線刻画が描かれています。この絵はいったい何を表しているのでしょうか。水面の波紋を表しているという説もありますが、まだよくわかっていません

灰釉陶器　手付瓶
塔の越遺跡（稲沢市）

平安時代前半の猿投窯産灰釉陶器手付瓶です。木枠を持つ古代の井戸から出土しました。器高約 22cm の大型品で、口縁部の一部を欠いていますがほぼ完形品です。口縁部から体部上半にかけて刷毛により灰釉が施釉されています。

志野　向付（むこうづけ）　　清洲城下町遺跡（清須市）

安土桃山時代から江戸初期にかけての美濃窯産志野向付です。清須城下町後期の溝から出土しました。体部には擂座と呼ばれる突起が貼り付けられ、鉄絵を描いた上に長石釉が厚く施されています。底部には円柱状の脚が４ヶ所に付さています。

令和５年度　イベント案内

どなたでもお楽しみできます！　大人の方を対象としています！

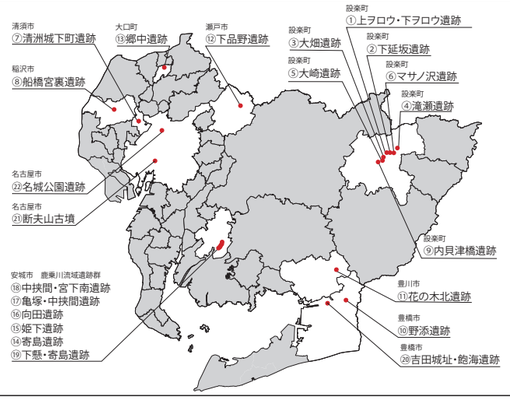
4	10(月)～21(金)	どなたでも	春の埋蔵文化財展『やとみ新発見展”（しんはっけんでん）！2023』　&　春の特別公開 ☆昨年度の発掘調査成果について、今年度最初に展示解説を行います。また、特別にセレクトした逸品の遺物を特別公開します！ ☆今年度は土日の開館はありません　予約不要・入場無料
5・6	13（土）27（土） 10(土)24(土)	大人向き	連続歴史講座『モノの形の考古学』全４回　講座：要予約・参加費：無料 ☆モノの形に焦点を当て、技術の進化、生活文化の向上、社会の変化などを解説します。 会場：愛知県埋蔵文化財調査センター　２階研修室　時間：午前 10 時 30 分～12 時　各講座５０名 ①　5 月 13 日（土）「うつりかわる『鍋』の形」　鈴木正貴　② 5 月 27 日（土）「うつりかわる『住まい』の形」　永井邦仁 ③　6 月 10 日（土）「うつりかわる『村』の形」　鈴木正貴　④ 6 月 24 日（土）「うつりかわる『墓』の形」　早野浩二
秋頃	未定	どなたでも	秋の埋蔵文化財展　予約不要・入場無料 ☆土日にはイベントを開催予定 会場：埋蔵文化財調査センター　２階
11	7（火）～26（日）	大人向き	令和５年度考古学フェア『あいちの考古学 2023』　予約不要・参加費無料 ☆愛知県内と近隣の情報を手に入れることができるビッグイベント！　日時：11 月７日（火）～26 日（日） 会場：名古屋都市センター（金山南ビル）== 詳細が決定次第 HP にておしらせします。
1～3	1/20(土)～3/10(日)	どなたでも	企画展　「あいちの発掘調査 2023」　予約不要・入館料が必要 ☆あいち朝日ミュージアムの委託事業として、2022 年度に実施された県下の発掘調査成果の速報展を開催します。 == 詳細が決定次第 HP にておしらせします。
3	上旬	大人向き	設楽ダム関連発掘調査成果報告会『新設楽発見伝 10』　予約不要・参加費無料 ☆令和５年度の設楽地区の発掘調査成果の報告会です。　== 詳細が決定次第 HP にておしらせします。

発行：公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター

令和４年度の発掘調査成果概要

当センターでは令和４年度に、尾張地域６遺跡、三河地域16遺跡の合計22箇所の遺跡で発掘調査を行いました。ここでは22遺跡全ての調査成果の概要を紹介します。

令和４年度に調査した遺跡



縄文中期後半の集落を調査！

下延坂遺跡（しものべさか）（北設楽郡設楽町）

令和４年度の下延坂遺跡の発掘調査では、主に縄文時代中期後半の遺構や遺物が数多く確認されました。注目される成果として、石囲炉を伴う竪穴建物跡が３棟、石棒と思われる石器を伴う竪穴建物跡が２棟確認されたことと、線刻を施された岩偶と思われる石製品があげられます。特に岩偶と思われる石製品は縄文時代中期後半での出土例は全国的にも少なく、貴重な資料となります。

石製品出土状況

遺跡全体に広がる水田を調査！

大崎遺跡（おおさき）（北設楽郡設楽町）

中世の水田関連遺構と、縄文時代中期中葉から縄文時代後期の竪穴建物跡や貯蔵穴、縄文時代早期後半の遺物が確認されました。

居住地から耕作地へと土地利用が変遷する様子や山間部における水田耕作の実態を復元するための良い事例となりました。

縄文草創期の石槍出土！

滝瀬遺跡（たきせ）（北設楽郡設楽町）

令和４年度の発掘調査は、近代の削平を受けたためか、遺構はほとんど確認されず、遺物の出土も希薄でした。確認できた遺構は縄文時代後期の土坑一基などで、遺物は縄文時代草創期の木葉形尖頭器が出土しました。

大型の石囲炉を調査！

マサノ沢遺跡（さわ）（北設楽郡設楽町）

縄文時代中期後半、縄文時代晩期、弥生時代前期の遺構を確認しました。このうち縄文時代中期後半の竪穴建物跡は重複が認められ、最初に建てられた竪穴建物跡には大型の石囲炉を持っていることがわかりました。

縄文中期の集落の続きを調査！

大畑遺跡（おおはた）（北設楽郡設楽町）

縄文時代中期後半の竪穴建物跡など、縄文時代の遺構が検出されました。竪穴建物跡は円形を呈しており、中央に土坑が見つかりました。これは石囲炉の礫の抜き取り跡と考えられます。またそこから少し下がったところに石器が広がって出土する箇所が見つかり、捨て場と考えられます。

集落に続く道を発見！

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡（かみ・しも）（北設楽郡設楽町）

古代から中世前半の道状遺構が見つかりました。明治時代初期の地籍図や近世後半の村絵図にも、集落に入る道の存在が記載されており、今回の発掘調査でその存在が古い時代まで遡ることが証明されました。

鍛冶関連遺構を調査！

内貝津橋遺跡（うちかいつはし）（北設楽郡設楽町）

炭化物や焼土を多く含む土坑、の内部で掘立柱建物跡が見つかりました。これらは鍛冶関連遺構と考えられます。

鍛冶関連遺構については、『北設楽郡史』にも近隣での鍛冶に伴う遺物の採取が報告されており、この報告との関連をうかがわせる成果となりました。

縄文時代中期後半の集落の一端を発見！

郷中遺跡（ごうなか）（丹羽郡大口町）

縄文時代中期後半の竪穴建物跡５棟や貯蔵穴と思われる土坑３基や中世の溝・土坑などが確認されました。

こうした成果はあまり知られていなかった尾張北部一帯の縄文時代中期後半の集落の様相を明らかにする上で貴重な事例といえます。

遺跡の端が判明！

船橋宮裏遺跡（ふなばしみやうら）（稲沢市）

今年度の調査では、中世の山茶碗などが出土しましたが、明確な遺構は少なく、遺跡の端であることがわかりました。

当遺跡は、平成３年度に調査が行われており、15世紀の火葬施設などが見つかっています。

周濠の一部を確認！

断夫山古墳（だんぷさん）（名古屋市熱田区）

今回の調査は、前方部西側の墳丘の裾や周濠を確認するために調査を行いました。

周濠は近世から近代の溝などで一部が壊されていましたが、周濠の底部や西側の肩の様子を知る手がかりを得ることができました。

古代の竪穴建物跡と戦国時代の区画を確認！

下品野遺跡（しもしな）（瀬戸市）

調査では、飛鳥時代の竪穴建物跡が１棟、戦国時代の区画溝７条、土坑１基、江戸時代後期～近代の土坑４基が見つかりました。

飛鳥時代の竪穴建物跡の西壁にはカマドの跡が発見され、当時の人々の生活を考える上で良い事例となりました。

清須城内堀跡を発見！

清洲城下町遺跡（きよすじょうかまち）（清須市）

上面では江戸時代前期初頭の五条川に面した船着場に関わる係船柱跡や掘立柱建物跡、溝などが確認されました。

また、下面では後期清須城の東端部が確認されました。江戸時代の古城絵図とも対比され、貴重な成果になりました。

江戸時代の吉田城址の外堀跡を確認！

吉田城址・飽海遺跡（よしだじょうし・あくみ）（豊橋市）

今年度は吉田城の東端部を調査し、鎌倉時代の柱穴数基と江戸時代の外堀跡などが検出されました。

鎌倉時代の柱穴跡は掘立柱建物や柵列跡の可能性があります。江戸時代の堀跡は、吉田城址の北東側を囲む外堀に当たります。

弥生時代から古代の遺構を確認！

鹿乗川流域遺跡群（かのりがわ）（安城市）

鹿乗川流域遺跡群の調査として中狭間・宮下南遺跡、亀塚・中狭間遺跡、向田遺跡、姫下遺跡、寄島遺跡、下懸・寄島遺跡の６つの遺跡の調査を行いました。

調査では弥生時代中期から古墳時代、奈良時代から平安時代にかけての竪穴建物跡や方形周溝墓などの遺構や弥生土器や須恵器、土師器などの遺物が多数出土しました。

竪穴建物跡（寄島遺跡）

古墳時代中期の集落を調査！

花の木北遺跡（はなきた）（豊川市）

今年度調査では、古墳時代中期の竪穴建物跡が５棟と大きな溝の一部が確認されました。また、土師器が多く出土しています。

令和２年調査の花の木古墳群に関連すると考えられ、この地域の集落の復元にまた一歩近づいたといえます。

遺跡全景（上が北）

16世紀から17世紀前半の屋敷跡発見！

野添遺跡（のぞえ）（豊橋市）

今年度調査では、16世紀から17世紀前半の区画溝とその区画内から掘立柱建物跡と考えられる柱穴が多数発見されました。

『八名郡史』には「徳川家康の時代に、吉田城領主から寺領を寄進される」との記載があり、遺跡の周辺には長谷寺があることから、この寺院に関連する屋敷地の可能性があります。

土師器の出土状況

御深井焼関連の遺物が出土！

名城公園遺跡（めいじょうこうえん）（名古屋市北区）

遺跡は名古屋城の北側に立地し、本丸などのある台地から約10メートル下った沖積低地にあり、標高は4.5～5.5メートルです。江戸時代には名古屋城北堀に隣接する「御蓮池」とその北側に尾張徳川家の庭園である下御深井御庭が広がっていました。

主な遺構・遺物は江戸時代の御深井焼関連遺物、古墳時代後期の竪穴建物跡やそれに伴う須恵器、古墳時代前期の土器集積が確認されました。

御深井焼関連遺物出土状況